

屋代町にあいさつの声を響かせよう ~ あいさつ標語表彰式 ~

1月30日（月）屋代青少年育成会長の宮下様、事務局の瀬下様が来校され、「平成 23 年度あいさつ運動標語」に選ばれた6名の児童に、表彰状を渡していただきました。

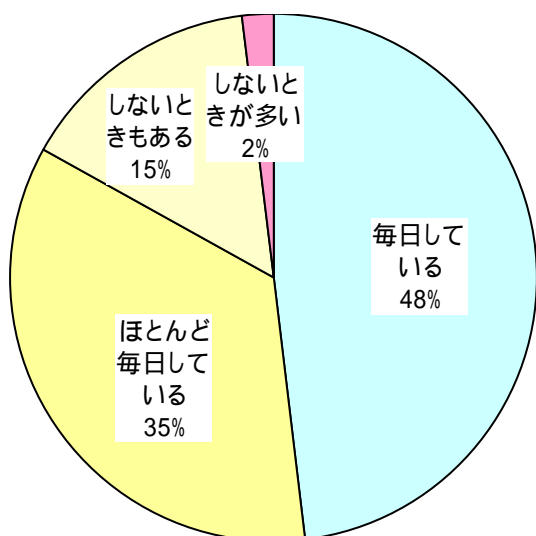
選ばれた標語は、立て看板となり、各支部に設置されます。標語を読み、元気いっぱい明るいあいさつができればいいですね。



あいさつで つなごうみんなで 絆の輪	6 年松組 佐久間靖也 さん
すてきだな あいさつする人 いいきもち	6 年竹組 栗原 杏花 さん
あいさつを えがおですれば うれしいね	6 年竹組 西村 瑠華 さん
あいさつで みんながニコニコ いいきぶん	4 年松組 鴫沢 陸 さん
あいさつは してもされても きもちいい	5 年竹組 太田 慎也 さん
あいさつは 大きな声で 自分から	5 年竹組 林 舞華 さん

学校自己評価で行った児童アンケートに、次の質問項目がありました。

Q 地域の人と「おはようございます」「こんにちは」のあいさつをしていますか



48%の人が「毎日している」と答えています。別の問いの「学校で友達や先生とあいさつをしていますか」では、56%の人が「毎日している」と答えていますから、地域でももっとあいさつができるといいですね。

地域の方々は、小学生から先に、明るい声であいさつをしてもらおうと、すがすがしい気持ちになり、今日の元気がわいてくるそうです。皆さんのあいさつの声は、魔法の力があるのです。また、あいさつは、皆さんを見守

ってくださいる方々への感謝の気持ちも含まれています。

昭和 61 年から続く屋代町の「あいさつ運動」の輪を広げていきましょう。

「まあいいか、どうせできっこないもん」とあきらめがちな長男が心配です。

● 「無気力」「劣等感」「不信感」につながることに心配に

すぐにあきらめてしまうことが、「自分なんか、何をやってもだめだ」という気持ちにつながり、**無気力**であったり、困難に立ち向かっていくことができなかつたりすることが、ご心配かと思えます。適切な配慮がなければ、**劣等感**が強まるとともに、周りの人々への**不信感**も積もっていくのかもしれない。



● 「興味関心」を重視し「主体的」に取り組める工夫を

子どもは飽きやすく、おもしろくないことにはなかなかかかわろうとはしません。ですから、学校の授業では、**興味関心**のもてる教材を用意して、自ら**すすんで取り組む**ことのできる工夫をします。また、答えを教えるので



なく、友達との話し合いや個別の追究の中で考え方を深め、自分で分かったという喜びを大事にします。それには、集中できる環境、ちょうどいい難しさの問題、適切な支援等が必要です。

勉強の喜びは、自分のよさが伸び、周りの人にも認められたり喜んでもらえたりすることにありますから、評価も重要になります。

● この子にあった「目標」と「方法」で、そして、仕事の分担を

お家では、「何であれば続けることができるか」を一緒に探してみてください。人との比較で高すぎる目標を与えないよう、**この子なりの目標と方法**を尊重し、「上手になったね」「がんばっているね」と認めてあげることです。

家の仕事をすることも、やる気を育てる大切な活動です。お父さん、お母さんがやっていることを自分でもやってみたいと思う気持ちは、だれにでもあるもの。やってみると大変で、根気も忍耐も必要ですが、道具が使えるようになる、できなかったことができるようになる等のことはうれしいものです。



家族の役に立つ経験をすることは、自信ややる気につながり、「自分は生まれてきてよかったんだ」という気持ちを育みます。さらに、「自分は自分のままでよい」という自己肯定感を高め、自分が好きなことに向けて、自分なりに精一杯努力し、やり遂げていくようになるといいですね。